

第 1 3 3 9 回 京都市教育委員会会議 会議概要

1 日 時 平成 2 7 年 8 月 2 0 日 木曜日
開会 1 0 時 0 0 分 閉会 1 1 時 4 5 分

2 場 所 京都市役所内 教育委員室

3 出席者 教 育 長 在田 正秀
委 員 奥野 史子
委 員 秋道 智彌
委 員 鈴木 晶子
委 員 高乗 秀明

4 欠席者 委 員 星川 茂一

5 傍聴者 1 人

6 議事の概要

(1) 開会

1 0 時 0 0 分, 教育長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第 1 3 3 8 回京都市教育委員会会議の会議録について, 教育長及び全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案 5 件

イ 非公開の承認

議案 2 件については, 人事に関する案件及び市長の作成する議会の議案に対しての意見の申し出に関する案件であり, 京都市教育委員会会議規則に基づき, 非公開とすることについて, 全委員の承認が得られた。

ウ 議決事項

議第 1 2 号 京都市立定時制単独高校の創設に係る基本構想について

(事務局説明)

○畑 学校指導課担当課長

平成 2 8 年 4 月開校の京都工学院高校に, 洛陽工業高校とともに再編・統合する伏見工業高校の敷地の一部を活用して設置予定である「新しい定時制単独高校」については, 昨年 7 月に策定した「新しい定時制単独高校の創設に関する基本方針」の下, その創設に向けた研究・協

議を行う組織として、伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制の管理職や教員、教育委員会職員による「新しい定時制高校創設プロジェクト」を発足し、教育内容や施設整備のあり方について検討を進めてきた。

本プロジェクトでは、公開の場で学識経験者等から指導助言を得る有識者会議を3回開催するなど、計8回にわたる議論を積み重ねるとともに、昨年度の教育委員会にて報告のとおり、本年3月に「まとめ（案）」を作成し、市民意見募集を実施した。そうした御意見や、これまでの議論を踏まえ、本年7月に「新定時制単独高校の創設に向けたまとめ」を取りまとめた。

両校の概要については、説明資料にまとめているが、伏見工業高校に単位制の工業技術科、西京高校に学年制の普通科の夜間定時制を設置しており、募集定員や修業年限及び資格取得については、記載のとおりとなっている。また、特別な支援が必要な生徒の在籍率は両校1割～2割程度、不登校を経験している新入生の割合は5割～6割程度となっている。両校の進路状況については伏見ではほぼ就職、西京では進学が4～5割、就職が1割程度となっている。

それでははじめに、市民意見募集の結果について、概略を説明申し上げる。
本年3月から1カ月の間、市民意見を募集した結果、54件の貴重な御意見を頂戴した。多かった項目として、「定時制単独高校への期待」、「求められる役割」や「学習保障・少人数教育・きめ細かい指導」に期待する御意見を多数頂戴している。また、「伏見工業高校と西京高校の統合」に関して、両校の取り組んできた教育活動を結集して更なる充実を図るためという観点や、教育活動を実施するには一定数の集団が必要であるといった観点から、「統合すべきではないか」といった御意見をいただいたところである。

続いて、先ほど、説明した市民の皆様からの御意見と有識者会議での議論を踏まえ、昨年度に報告した「まとめ（案）」から追加した重点項目について説明申し上げる。

まず1点目、学校組織のさらなる活性化のため、「若手教員をはじめ、幅広い年齢層の教員を配置」及び「『熱意と意欲を持った教職員』を配置する」との文言を追記している。

2点目、通学意欲がありながらも高校に登校できない生徒への学習保障のあり方について、「今後、その実施方法や対象とする通学圏なども含めた検討が必要である」と、具体的な検討項目に関して追記している。

3点目、「新たな選抜方法の検討」について、「個別相談や見学・体験などを複数回実施している総合支援学校職業学科の『オープンキャンパス』の実績」を踏まえた検討を行う旨を追記している。

4点目、「両校の再編・統合」について、様々な御意見を踏まえ、「今後は市立定時制高校全体のあり方について検討を進めることが重要」との文言を追記している。

以上が、「まとめ（案）」から追加した主な項目となっている。

続いて、「京都市立定時制単独高校の創設に係る基本構想」について説明申し上げる。

お手元には議案として、「基本構想」を添付しているが、説明資料に項目ごとの要点を掲載しているので、そちらで説明申し上げる。

本構想は、「まとめ」の内容を踏まえ、新定時制単独高校の基本理念や創設に向けた方針等を定めるものである。

はじめに、「(1)『新定時制単独高校』の基本理念」について、新設校では多様な学びの動機や学習歴を有する「学び直し」を求める生徒や、「引きこもり傾向」にある生徒の学習保障を行い、支援体制を確立するとともに、様々な生徒のニーズに対応できる、昼間・夜間2部制の教育課程を編成することとしている。

「(2)『新定時制単独高校』創設に向けた基本方針」について、新設校では、(1)に掲げた基本理念の下、よりきめ細かい指導と専門性のある支援体制を確立するため、伏見工業高校夜間定時制及び西京高校夜間定時制がこれまで培ってきた教育力を結集させ、さらに発展させていくことが必要である。そのため、新定時制単独高校については、両校を再編・統合し、京都市立で初の定時制単独高校として、早ければ平成31年度開校を目指すこととしている。

「(3)教育課程・教育内容」について、新定時制単独高校においては、普通科を基本とし、進学・就職をはじめ生徒の多様な進路希望に応えるため、きめ細かい指導のほか、資格取得等も視野に、専門性の高い科目を教育課程に設置することとしたいと考えている。また、修業年限については、3年制及び4年制を柔軟に選択できる制度とするとともに、ICT環境を利用した学習支援を視野に入れた通信制の併設を目指し、通学意欲がありながらも登校できない生徒の学習保障のあり方について、さらなる検討を進めていく。

「(4)指導及び支援体制」について、新校には「熱意と意欲を持った教職員」を配置することはもとより、総合育成支援教育など、各分野の専門家と連携を図り、一人ひとりの生徒にきめ細かい支援を行う体制を確立してまいりたい。

「(5)学校規模」について、新校の定員は、現在の西京定時制及び伏見定時制の定員の合計80名を基本とし、通信制については、今後、検討を行っていく。また、生徒の進路希望等を十分に保障するため、15～20名程度を標準とし、きめ細かい少人数教育を展開するなど、柔軟な教育システムを検討していく。

「(6)今後の検討の進め方」について、今後は、学校現場と教育委員会で構成する「ワーキンググループ」を設置し、基本構想案に記載された内容を、具体的に教育課程や教育内容にどう盛り込むのか、また募集定員や支援体制について検討を図っていく。

最後に、今後のスケジュールについて説明申し上げる。

只今、説明した「基本構想」については、「ワーキンググループ」にて一層の具体化を図っていく。

また、施設整備については、現在、基本計画の策定に向けた検討を進めているが、今後、29年度から施設整備に着手すべく、準備を進めていく。

また、お手元の資料最後に、右肩「京都の定時制・通信制教育を考える会」からの申し入れ書を添付している。

先日の勉強会においても、要望書については報告したが、特に定時制に係る部分については、申し入れ書「Ⅰ、Ⅱ」が該当している。同会は、特に夜間定時制・通信制の意義を主張されており、これまでの「プロジェクト」での議論及び「まとめ」を、どう実現していくのかといった点で申入れに來られた。

こちらからは、両校の意見を踏まえ、いただいた要望も参考に、「まとめ」及び新設校の具体化を、今後図っていくことを説明申し上げた。

(委員からの主な意見)

【在田教育長】新定時制単独高校については、本年4月に開校した京都府立清明高校と差別化を図ることで二重行政とならないよう留意するとともに、引き続き、学校現場を含め様々な御意見を踏まえ検討を進めていく。

【秋道委員】「まとめ」には、教職員の配置について「今後は若手教員をはじめ、幅広い年齢層の教員を配置」する旨が記載されているが、その意図は。

【事務局】両校では現在、教職員の平均年齢が高く、学校組織の更なる活性化を図ること

が必要との観点から記載した。

【秋道委員】若手教員はもちろん、幅広い年齢層の教職員の配置について配慮することは良いことだと考える。

【秋道委員】「基本構想」に「資格取得」に関する記載があるが、両校では現在、こういった資格を取得している生徒がいるのか。

【事務局】西京高校夜間定時制では簿記、伏見工業高校夜間定時制では建築系や機械系の資格を取得する生徒がいる。

(議決)

教育長が、議第12号に対して採決を行い、各委員「異議なし」を確認。

議第13号 京都市立高等学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について

(事務局説明)

○砂田 新工業高校開設準備室長

本議案は、京都市立洛陽・伏見工業高校の統合・再編による平成28年4月に京都市伏見区に開校する京都市立京都工学院高等学校の設置に伴い、同校の課程、学科、修業年限、在学年限及び学期について定める必要があるため、「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」の一部を改正するものである。

本校では、工業科であるプロジェクト工学科と新たな進学型の専門学科であるフロンティア理数科を設置する。募集定員については、プロジェクト工学科が180名で、うち、ものづくり分野が108名、まちづくり分野が72名であり、フロンティア理数科が60名を予定している。また、修業年限と在学年限については、他の全日制高校と同様に、3年と5年、学期については、洛陽工業高校と同様、3学期制としたい。

主な教育内容について、産業界や大学、地域等との連携のもと、学習を通して培った様々な専門性や技術を結集させ、社会や地域の課題に対応した課題発見・解決型学習を行う教育プログラムである「プロジェクト工学」を核とし、我が国の「ものづくり」「まちづくり」を担う人材育成を目指して、

- ・科学・技術・工学・数学の一体的な「ものづくり」を目指す教育の推進
 - ・優れた技術のある産業界、知の集積拠点の大学など「京都ならではの教育力」の積極活用
 - ・環境・エネルギー、防災など、喫緊の社会的課題の解決や人類の幸福に貢献する大切さを学ぶ取組の推進
 - ・京都や日本、そして世界の文化・伝統・生活など社会の多様性を学ぶ取組の充実
- の4つの教育活動を柱に取り組んでまいりたい。

以上のように学校の教育内容を具体化していく中、本年5月に実施した学校説明会では計1,300人、今月初旬に実施したスクールガイダンスでは3日間で計650人の生徒・保護者の多数参加があったなど、中学生の新校への興味・関心が高まりを感じているところである。また、今月30日には左京区のみやこめっせで、人工知能搭載会話ロボットや生徒1人1台に導入するタブレットパソコンを活用したデモ、鉄道事業のスペシャリストであるJR東日本の澤本氏の特別講演会などを企画した進学系に特化した学校説明会を開催するなど、新校の魅力発信のため広

報活動にも力をいれているところである。

また本年6月には、「プロジェクト型学習・課題解決型学習」について先端的な教育を進めている、石川県の金沢工業大学、文科省の次期学習指導要領の改訂で導入が検討されている「アクティブ・ラーニング」のトップランナーである東京都の産業能率大学と、新校の魅力ある教育プログラムの導入に向けた共同研究や教職員研修を推進するため、全国的に注目を集める両大学と本市教育委員会との連携協定を締結するなど、魅力ある学校づくりを進めているところであり、今後、京都工芸繊維大学をはじめとする京都の大学や宇宙航空研究開発機構（JAXA）との連携を行っていく。

また、現在、本年6月から、新校舎・グラウンド等の全面改修・一部増築工事の最中であり、本校のシンボルとなる地域・社会に開かれた「クリエイトキューブ」、工業のハイテク機器を備えた「テクニカルステーション」、また高性能の人工芝グラウンドや、最新鋭のトレーニングルームなど、充実した施設整備に向けた工事が開校までに完了予定である。

最後になるが、来月1日より、入試関係業務、事務室体制づくりや各種団体登録などの業務の必要性から、正式に「京都市立京都工学院高等学校」を設置し、この後、ご審議いただく内容に基づき実施する入学者選抜の具体化などをはじめ、開校に向けた準備を一層強化していきたい。

（委員からの主な意見）

【秋道委員】最先端の大学や研究機関の連携を図っていくということだが、地域との連携については、いかがか。また教科書やシラバスの具体化は進んでいるのか。

【事務局】地域連携については、防災、環境等の地域のニーズに応えることができるよう、地元の企業やその連合体である京都試作ネットや、近隣の龍谷大学をはじめ、地元の小中学校、福祉施設をはじめ、積極的に行ってまいりたい。

シラバス（指導計画）については、本年秋頃を目途に作成している。基本方針にも掲げている科学・技術・工学・数学を一体的に学ぶSTEM教育についてもカリキュラムにしっかり盛り込んでいきたい。

（議決）

教育長が、議第13号に対して採決を行い、各委員「異議なし」を確認。

議第14号 平成28年度京都市立高等学校第1学年生徒募集定員について

（事務局説明）

○三宅 学校指導課担当課長

まず、今春に実施した、平成27年3月卒業生を対象とした本市立中学生の進学状況について申し上げる。

全日制、定時制、高等専門学校、特別支援学校、通信制をあわせた高校進学率は99.0%となり、昨年度から0.2%上昇した。全日制への進学者は67名減少したが、進学率は91.4%と昨年度から0.2%上昇し、5年連続で91%以上となった。内訳は、公立54.2%、私立37.1%、国立0.1%である。定時制への進学率は2.7%と、昨年度から0.1%上昇した。各課程において、26年度選抜から大きな増減はなかった。

今年４月に開校した府立清明高校の選抜結果だが、清明高校は午前・午後の昼間２部制の定時制高校であり、１２０名の定員に対して２８６名が受検し、２．３８倍と高い倍率となった。同校が受検生のニーズにあったと考えられる。

次に、平成２８年３月卒業予定者を対象とした京都市・乙訓地域公立高校の募集定員についてだが、結論から申し上げますと、対象の中３生徒数が１３３名減少する中、平成２８年度の公立高校全日制の募集定員については、７０名減をいたしたく考えている。

募集定員の設定については、生徒の進路希望の実現を第一義に考え、各高校の物理的な施設状況や各地域の中学３年生の増減等、京都市・乙訓地域の全体状況を総合的に勘案し、公私協調で全日制高校への進学率向上を目指し、京都府教育委員会はもとより、私立中学高等学校連合会とも協議を重ねてきた。

２７年度選抜結果では、市立中学生の私学進学率が３７．１％となり前年度より０．１％の微増であり、私学志向の一定の高止まりが予測される。私学連合会においても、これまでと同様に積極的な受入れを図っていく意向を確認している。あわせて、公立高校全日制では、定員を全体で７０名の減にとどめることで、本市立中学生の全日制進学率の維持、向上を図る。

具体的な公立高校での増減について申し上げます。まず全日制について、市立高校では、洛陽工業高校と伏見工業高校の募集停止により２７０名減し、２８年４月開校予定の市立京都工学院高校において新たに２４０名を募集する。２４０名の内訳は、プロジェクト工学科で１８０名、フロンティア理数科で６０名である。府立高校では、鴨沂高校において４０名増、鳥羽高校、洛西高校でそれぞれ４０名減する予定である。以上全日制の増減をあわせると、７０名の減員となる。

定時制の募集定員については、この間、全日制進学率が向上したことから、大幅な定員割れの状況が続いているが、平成２８年度選抜の募集定員においては、府立鴨沂高校の募集停止に伴う３０名の減をいたしたく考えている。

従って、市立で２４０名増、２７０名減、府立で４０名増、１１０名減で、全体として１００名の定員減となる。

なお、府立高校の募集定員及び増減する高校名については、明日８月２１日の京都府教育委員会で審議されるものである。また、本日の議案、明日の府教委の議案が議決されれば、明日８月２１日の夕刻に、記者発表を行う予定である。

参考資料として、今後の生徒数増減、過程・学科別の募集定員、２８年度選抜日程を添付している。

(委員からの主な意見)

【秋道委員】京北地域に関連して、周山中の生徒は主にどこの高校に進学するのか。

【事務局】周山中は口丹通学圏になり、府立北桑田高校に進学している生徒が多い。

【在田教育長】清明高校について、志願者３２２名で受検者が２８６名であるが、未受検者の進路先はどこか。

【事務局】清明高校の未受検者の進路先は、主に私立高校である。

【高乗委員】中学３年生が１３３名減の見込みだが、募集定員の設定に際して転出入者は勘案しているのか。１３３名減に対して定員を１００名減としているが、転出入状況によっては３３名の進路先がなくなってしまうのではないか。

【事務局】転出入者については確認して、後日回答する。ただ、毎年同程度の転出入が見込まれるため、影響は少ない。

(議決)

教育長が、議第14号に対して採決を行い、各委員「異議なし」を確認。

その他、議案2件については、人事に関する案件及び市長の作成する議会の議案に対しての意見の申し出に関する案件のため非公開

(4) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

- ・8月 5日 文科省調査 フリースクールなど民間施設の実態調査について
次期学習指導要領原案について
- ・8月 6日 文科省調査 学校基本調査（不登校小中学生）について

○事務局から当面の日程について説明

(5) 閉会

11時45分、教育長が閉会を宣告。

署 名 教育長